

在宅服薬管理指導・居宅療養指導における
管理栄養士の役割と課題
～チーム医療多職種連携による成功例～

(株)ジェンダーメディカルリサーチ

ケイ薬局

伊藤 礼 宮原富士子

-----管理栄養士の薬局で在宅医療支援----- 医療提供施設としての薬局の位置づけ

平成19年4月の医療法改正では、
医療は国民自らの健康の保持増進のための努力を
基礎として、医療を受ける者の意向を十分尊重し、
病院、診療所、介護老人保健施設、調剤を実施する薬局
その他の医療を提供する施設（以下「医療提供施設」）、
医療を受ける者の居宅等において、医療提供施設の機能
（以下「医療機能」という）に応じ効率的に、かつ、福祉
サービスその他の関連するサービスとの有機的な連携を
図りつつ提供されなければならない と明記された。

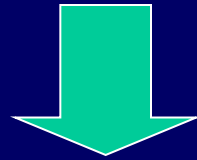
（下線改訂部分）

背景

- ・地域保険薬局の担う役割りのひとつとして、「在宅医療（在宅服薬管理指導・居宅療養指導）」が重要視されつつある。
- ・地域住民の高齢化に伴い、医療者連携の理念に基づき、在宅医療に積極的に関わることは、医療の安全性の確保・生活の質の確保からも重要であり、薬局も様々な工夫や努力をして体制作りを進めている。
- ・一方、管理栄養士が、在宅医療に直接関われる機会はまだまだ多くはない。栄養指導に関する保険点数のあり方も含め検討が急がれる。

内容 と 目的

- 認知力が低下した「糖尿病外来患者」が外来通院治療から居宅療養支援へと体制の切替が行われた。
- 他の医療者・介護系担当者との連携のなかで、管理栄養士として居宅療養業務を経験した。
- 患者の予後が非常に改善した。



この経験に基づき、在宅医療における管理栄養士の活動の可能性について検討したので報告する。

症例と経緯

＜症例＞70歳 女性

＜プロフィール＞夫と二人で生活。自営業。娘は独立して都内別居。

＜基礎疾患＞ 糖尿病

＜状況＞当薬局に門前病院の処方箋をもって来局。

インスリン他の服薬指導。

自己血糖測定(SMBG)。

インスリン自己注射を自宅で夫が介助実施をしていた。

薬局に何度も問合せが続くようになり、

自己血糖測定MBGの機器の破損の回数が

尋常でなくなる。



担当薬剤師が、医師と相談し、在宅での服薬指導管理に至る。



認知力低下の確認を契機として、当薬局薬剤師と家族の連携により居宅療養へ移行する

症例と経緯(2)

居宅療養中

＜状況＞在宅服薬指導に入った後も、複数回の訪問要請が続く。
インスリン投与は、朝、昼は夫、夜は娘の電話の誘導で
という生活が続く。
担当薬剤師が家族および医師と相談の後、
地域包括センターに連絡をとり介護認定申請をする。
ケアマネジャー・在宅訪問医師・看護師・ヘルプーステーションが
決まり、本格的な**チーム医療**が開始となる。



在宅医療関係者会議の実施

＜メンバー＞ケアマネジャー・ヘルプーステーション責任者・ヘルパー(予定者)
診療所医師・診療所事務職員・
訪問看護ステーション看護師・居宅療養指導薬剤師

症例と経緯(3)

会議の席上:

食事管理・食生活のQOLの確保等の検討の中で、
弁当作りという行動レベルと食事の楽しみという観点から
医師の提案で当薬局の**管理栄養士が参画**することとなる。



弁当づくりを通しての管理栄養士の役割

1、食習慣を整える 2、弁当作りを楽しむ

<状況>

平日のお昼と夕食はケアマネージャーが弁当を手配

→土曜日のお昼を担当

500～600kcalを目標とした昼食弁当を考案し、一緒に弁当作り盛りつけを行う。

<効果>

①QOLの向上 ②認知力低下防止

弁当の例(1)

献立作成のポイント ; ①簡単にできること ②危なく作れること



豚しゃぶ

豚もも肉 60g
大根(おろす) 50g
ポン酢 小匙1
赤ピーマン 10g
レタス 10g

ごはん 130g

きんぴらごぼう

ごぼう 40g
人参 10g
ごま油 小匙1/2
砂糖 小匙1/4
みりん 小匙1/4
しょうゆ 小匙1/2
ごま

マカロニサラダ

マカロニ(乾)10g
きゅうり 20g
ハム 1/2枚
マヨネーズ 小匙1

糖尿病交換表

エネルギー表示

エネルギー 504kcal

表1	表2	表3	表4	表5	表6	調味料
3		1		0.5	◎	0.15

2010.1.14

弁当の例(2)

マカロニサラダ



<材料> 2人分
マカロニ(乾) 40g
きゅうり 1本
ハム 2枚
マヨネーズ 大匙1・1/3

<作り方>
①マカロニはゆで、きゅうり、ハムは食べやすい大きさに切る。
②①を、マヨネーズで和える。

マカロニは表1のご飯と
同じグループですので
この量を食べると
ご飯1単位(55g)と交換します。

表1 1人分でご飯1単位と交換

きんぴらごぼう



<材料> 2人分
ごぼう 150g
にんじん 40g
ごま油 小匙1
しょうゆ 小匙1
砂糖 小匙1/2
みりん 小匙1/2
ごま

<作り方>
①ごぼう、にんじんはせん切りにし、ごぼうは水にさらす。
②ごま油を熱し、①を入れて炒め、砂糖、みりん、しょうゆを加えて炒め煮にする。

表6 1人分で野菜95g摂取

小 括

- ☆ 管理栄養士が在宅医療に関わる実践の経験をした。
- ☆ チーム全体の効果として、**インスリン離脱・経口剤による血糖管理**が出来るようになった。
これにより、患者のQOLの向上並びに病状の改善が得られたと考えられます。
- ☆ その後の取り組みについて(**波及効果**)
 - ・ 訪問看護師が食習慣に問題があると感じた患者や家族に対して、薬局を基点として食事アセスメントを行い、管理栄養士につないでくれるようになった。
 - ・ 一般開業医師からのオーダーで、有料の栄養指導のオファーがくるようになった。



HAP Station を基盤としたエリア機能の充実

一方通行な情報の氾濫



私の症状
いったいどうなってるの？

どの情報が正しいの？

私はどこに行けばいいの？

情報の氾濫は、一般の女性たちが正しい情報の選択をする上で大きな問題になっている。

HAP Medical サポーターにより
個々に即した双方向での情報提供

傾聴

説明

情報整理

看護師

薬剤師

保健師

理学療法士

助産師

栄養士



フィードバック

医療
機関

紹介



HAP Stationを形成

まとめと考察

認知症の患者さんへの接し方の学習経験がなく最初は戸惑いの連続であった。専門の薬剤師や看護師の指導を受けながら会話の仕方や疾病の成り立ちや患者行動の特徴などを学びながら実施した。

- ・薬局を通じて他職種と連携をとることによる在宅医療に管理栄養士が関わる重要性を認識した。
- ・地域の薬局が高齢社会のひとつのキーステーションとなる可能性が示唆された。
- ・他職種にもこのような業務ができることを積極的にアピールし、実連携を構築することで薬局における管理栄養士の業務を拡大できる可能性が示唆された。今後の取り組みについてその可能性を引き出す施策の検討が急務である。